第１回 鞍手町役場新庁舎建設に関する住民説明会 概要

１．開 催 日　　平成３０年１２月３日（月）

２．開催時間　　開会　午後７時３０分
　　閉会　午後９時３０分

３．開催場所　　総合福祉センター　多目的室

４．出 席 者　　４８人

５．次　　第

１）開会

・司会より開会
・資料の確認

２）町長あいさつ

・町長よりあいさつ

３）これまでの経過について

・事務局から【資料②】これまでの経過について説明

４）鞍手町庁舎等建設基本計画（概要版）の説明

・事務局から【資料③】鞍手町庁舎等建設基本計画概要版について説明

５）基本計画の見直しにあたって（町長の考え方）

・町長から考え方等説明

６）質疑応答、意見交換

・回答のうち、特段の記載がないものは町長が回答

質問者①

・事務方の役場職員と、議員、町長とで変更計画をまとめた上で、説明してほしい。役場から具体的な提案のない、まして過疎債の目途のない段階で住民に意見を求めるのは、丸投げではないのか。この説明会の意味は何か。
・過疎債は、選挙中には間に合うと聞いていた。
・広報から開催までの期間が短く、事前に計画を読むなどの聞く側の準備期間が足りない。
・くらて病院の移転計画の見直しについて方針転換まで１カ月程度だったが、どのような検討の結果、転換に至ったのか。

①への回答

・建設計画自体を知らない住民が多いため、周知の必要があると考えた。

・すべて決定後に開催される住民説明会もあるが、それでは住民の意見が生かされない。
・計画に掲げた日程に間に合わない点も含め、説明の必要があると考えた。
・くらて病院は、理事などと協議の結果、今の段階では計画どおりにするのが最善と考えた。

質問者②

・パブコメでも意見したが、L字ラインから外れた人は生活しづらく過疎化が心配。町全体の発展にとってどこがいいか、50、60年後を見据えて判断してほしい。
・今の庁舎の横を候補に入れてほしい。

②への回答

・既に町の中心地とそうでないところで賑やかさに濃淡がある。人口規模は減少傾向にあるが、長期的に考えたい。
・施設間で一定の距離を保った方がいいのかについても考慮したい。

質問者③

・当時、庁舎等建設検討委員の一人として、しっかり検討した。日程だけでなく、建設地まで見直すという町長の意見は、当時の委員を蔑ろにしていないか。見直しについて委員への説明がないのは、委員を軽視した振る舞いではないか。他の委員も戸惑っている。
・福祉センターは建設から年数が経ち、これから多くの経費が見込まれる。これを残すと言うなら役場内の意見もきちんと取りまとめてほしい。また資産価値のあるうちに売却した方が、保守経費の削減と庁舎建設費の財源という点で有効ではないか。
・既に多くの人の意見を聞いた上での計画なのだから、日程の変更だけでいいのではないか。建設地など、他の点も見直すなら、小牧墓所の移転を進めるのはなぜか。
・代替案の提示がなく、また総合計画の見直しが必要になるのに手順を踏んでいない。議員時代とまったく手法が異なり驚いている。何のための説明会か。

③への回答

・検討委員の中には、既に当時の団体の代表者としての職から退いた人もいる。そのため現在の検討委員を招集しても同じ人にはならない。役場内でも委員への説明について検討したし、私自身はしたいと考えていた。
・総合計画は平成31年度がちょうど見直しの時期にあたるため、これから見直しをする予定。「L字ライン」という名称も、今後L字ではなくなるため変更を考えている。
・今後も様々な計画の見直しに際して委員を公募するので、参加してほしい。

質問者④

・過疎債に間に合わないなら、金銭面はどうなるのか。
・公約の「病院と庁舎の建設計画を見直す」というのは、建替えしないという意味だと思っていた。その方が金銭面の負担が少ないのではないか。
・予算は町長の権限で決定できると聞いているので、公約どおりに進めればいいのではないか。

④への回答

・公約の「建設計画を見直す」というのは、建替えないという意味ではない。耐震の基準があり、また防災拠点となる建物なので建替えは必要。選挙中もそう主張してきた。

・見直しの結果、今の候補地が最善となればその結果は甘んじて受ける。

質問者⑤

・過疎債の目途が立たない中、結局いつ建替えるのか。また財源は。過疎債などが決定するまでは凍結か。

⑤への回答

・過疎地域の指定が延長されるかどうか平成 32 年度に判明するので、それを判断材料としたい。これまで過疎地域の指定はずっと延長されてきたという経緯がある。また市町村役場機能緊急保全事業債も平成 32 年度までだが、全国の庁舎の耐震化率は 84%という記事があり、耐震化推進のために延長もあると考えている。自主財源のみの建替えは困難。

質問者⑥

・過疎債を利用できるよう、平成 32 年度に間に合わせられないか。

⑥への回答

・基本設計がこれからの現状では間に合わない。

質問者⑦

・福祉センターの利用者数として挙げた数字は延べ人数で、住民の来庁率と比較してセンターを重要だと論じるのは、比較の仕方に誤りがある。
・説明会の経緯として、庁舎建設よりセンター残留の方に意図があるのではないか。

⑦への回答

・センターを残してほしいという住民の声は多く、公約にも掲げた。
・現在の庁舎等建設計画に思うところがあった。
・建設計画の日程に合わせた遂行が困難になった。
・以上の理由から、説明会を開催して、住民からの意見を集約したいという考えに至った。

質問者⑧

・既存の計画を一から見直すのか。検討委員会には費用や手間がかかる。委員は責任をもって検討し、議員も承認した。それをすべて無とするのはどうか。
・説明会などに参加した人のみの意見を、住民の意見と考えるのはどうなのか。

⑧への回答

・基本計画は議決要件ではなかった。
・基本計画の実施に必要な基本設計の予算について、議会は否決してきた。

質問者⑨

・住民説明会はあと２回あるが、また同じような展開になるのでは。

９への回答

・計画の見直しには現在の基本計画の理解が必要であり、周知のためにも説明会は必要。
・言い尽くせない人は、別の会場でも意見をお願いしたい。

７）閉会

・司会より閉会